

「第35回心豊かな少年を育てる市民大会」実行委員会 構成団体

団体名	実行委員
ガールスカウト福岡県北九州地区	伊高 美津子
社会福祉法人北九州いのちの電話	上村 時靖
北九州市キャンプ協会	仲西 茂
北九州市子ども会連合会	福島 司
社会福祉法人北九州市社会福祉協議会	火箱 要
北九州市少年補導委員連絡協議会	委員長 野口 勝義
北九州地区(市)少年補導員連絡協議会	中村 勝利
北九州市私立幼稚園PTA連合会	小金丸 数嘉
一般社団法人北九州市私立幼稚園連盟	沼 登志子
北九州市自治会総連合会	永井 博文
北九州市青少年育成会協議会	野口 勝義
北九州市青少年育成市民会議	副委員長 伊藤 一義
北九州市地域活動連絡協議会	小野 マリ子
北九州市母の会連絡協議会	10か条締結者 山口 万規子
北九州市PTA協議会	副委員長 藤田 武男
北九州市婦人会連絡協議会	緒方 撰子
一般社団法人北九州市保育所連盟	藤井 英和
北九州市保護司会連絡協議会	森 義明
北九州市民生委員児童委員協議会	橋本 節夫
一般社団法人北九州青年会議所	力武 清人
北九州婦人教育研究会	鶴田 伶子
「小さな親切」運動北九州市本部	南 文世
日本ボーイスカウト福岡県連盟北九州東地区協議会	門司 昭英
福岡県協力雇用主会北九州支部	野口 義弘
福岡県私立中学高等学校保護者会連合会北九州支部	大賀 裕一
福岡保護観察所北九州支部	日高 富美子

後 援

北九州市立小学校長会	毎日新聞社	NHK北九州放送局
北九州市立中学校長会	読売新聞西部本社	RKB毎日放送
北九州市立特別支援学校長会	西日本新聞社	九州朝日放送
福岡県私学協会北九州支部	日本経済新聞社北九州支局	テレビ西日本
福岡県警察	時事通信社北九州支局	FBS福岡放送
朝日新聞社	一般社団法人共同通信社	TVQ九州放送
福岡県非行少年を生まない社会づくりネットワーク会議		

子ども家庭局青少年課
TEL093-582-2392

第35回 心豊かな少年を育てる市民大会

大会テーマ「スマホとSNSの時代、親の関わり方は」

日時／平成26年7月5日(土)10:30~12:30
(受付10:00~)

会場／北九州芸術劇場大ホール(リバーウォーク北九州6階)

次 第

開会行事／10:30~10:50

- 子どもを育てる10か条唱和
- 開会のことば
- 主催者あいさつ
- 来賓祝辞

講演会／10:55~11:55

演 題 「スマホとSNS時代での“情報モラルの力”～ネット社会で賢く生きぬくために～」
講 師 安心ネットづくり促進協議会 特別会員
熊本市立総合ビジネス専門学校 教頭 **桑崎 剛氏**

青少年の活動紹介／12:00~12:20

- マーチングバンド……………北九州市立志徳中学校吹奏楽部

閉会行事／12:20

- 閉会のことば

主 催

「第35回心豊かな少年を育てる市民大会」実行委員会
北九州市、北九州市教育委員会

大会テーマ 「スマホとSNSの時代、親の関わり方は」

● 開催趣旨 ●

次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長することは、市民全体の願いであり、私たち大人には、子どもたちに良好な社会環境を整えていく責務があります。

近年、少子化、核家族化、高度情報化など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、大人もその急激な変化に対応できていない現状があります。

このような中、明日の北九州市を担う子どもたちが生き活きとした明るい未来を迎え、活力に満ち心豊かにたくましく育つには、家庭・地域・学校が相互に連携し、子どもたちが健やかに成長する環境を整えることが大切です。まずは家庭が中心となるのが当然ですが、家庭や子どもたちの身近にある地域が果たす役割も非常に重要です。

今大会では、地域の一員である子どもたちとのコミュニケーションの大切さを再確認していただき、スマートフォンとソーシャルネットワーキングサービス(SNS)に囲まれて育つ子どもたちに対し、私たち大人に何ができるのか、今大会が、その答えのひとつを発見する機会にできればと考えています。

講演 「スマホとSNS時代での“情報モラルの力”～ネット社会で賢く生きぬくために～」



桑崎 剛氏

講師プロフィール

安心ネットづくり促進協議会特別会員・熊本市立総合ビジネス専門学校 教頭
熊本市出身。東京理科大学理学部卒業。専門は数学教育。他に情報(モラル)教育、ICTの教育利用など。

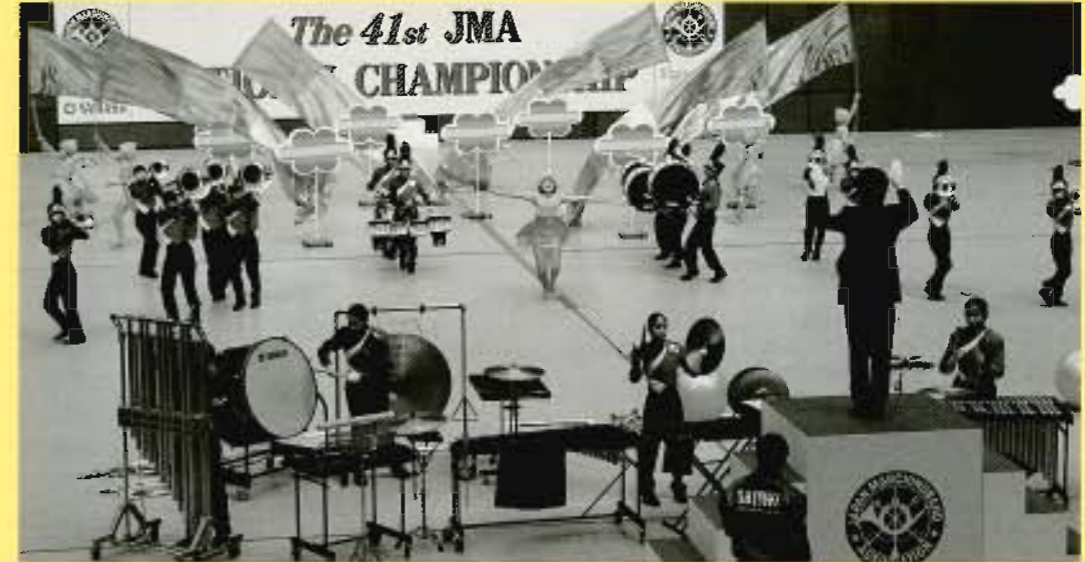
東京都私立高等学校講師、東京都北区立中学校教諭を経て熊本県内の公立中学校教諭、熊本市教育委員会教育センター指導主事、熊本県内の公立中学校教頭を歴任し現職。教諭時代は東京工業大学教育工学開発センターにて研究生として情報教育、ICTの教育利用について研究し、文部科学省「教育の情報化総合モデル支援事業」企画評価委員等に従事し、情報モラル教育の普及啓発に向け、各種セミナーでの講師や著書等の執筆活動を展開する。

その後、安心ネットづくり促進協議会(青少年の安心・安全なインターネット等の利用に向けた民間団体)の特別会員や、EMA(モバイルコンテンツ審査運用監視機構)の賛助会員、また、現在、内閣府「青少年インターネット利用環境整備に関する普及啓発検討会議」委員長、日本教育工学会(JAET)理事、日本教育工学会企画委員、九州ICT教育支援協議会会長、熊本県小・中学校情報教育研究会副会長を務めている。また、本年から文部科学省委嘱「ネット依存対策委員会」委員にも就任。

「ガイアの夜明け」他のテレビ出演や新聞等、「子どものネット問題」における第一人者であり、県内外からの依頼で全国で講演活動を行っている。また、月刊「心とからだの健康」H24.8月号の論文はH25年度の北里大学医学部の入学試験で小論文問題として採用されるなど、記事掲載も多数である。

青少年の活動紹介 マーチングバンド 北九州市立志徳中学校吹奏楽部

今年3月、「第41回マーチングバンド・カラーガード全国大会」に九州地区代表として3回目の全国大会出場を果たし、銀賞を受賞するなど、多数の賞を受賞。学校行事、大会、コンテストへの出場に加え、地域の行事などにも積極的に参加し、地域の方々や校区の小学生などと交流を深めている。北九州芸術劇場大ホールで行う定期演奏会～スマイルコンサート～をはじめ、年間15本以上のステージに出演している。



主な受賞歴

- ・第31回九州マーチングコンテスト 銀賞
- ・第6回マーチングバンド・カラーガード九州大会福岡県予選 金賞
- ・第41回マーチングバンド・パトントワーリング全国大会 銀賞

視 て 聴 い て
わ た し の
提 言



くわさき つよし

スマホとSNS時代 での情報モラル教育 を考える

熊本市立総合ビジネス専門学校教頭
安心ネットづくり促進協議会特別会員
東京理科大学卒業後、東京都立中学校教諭、
熊本県内公立中学校教諭、東京工業大学研究
生、熊本市教育センター指導主事、公立中
学校教頭を経て現職。専門は数学教育、情報教
育。現在、内閣府青少年ネット環境整備普及
啓発会議委員長、日本教育工学協会理事、九
州ICT教育支援協議会会長。文部科学省教育
の情報化事業評価委員等も歴任。他に「ガイ
アの夜明け」などテレビ出演や新聞、雑誌等
にも記事掲載多数。青少年のネット問題に
関する第一人者として活躍。

桑 崎 剛

西暦2000年に固定電話の台数を携帯電話が上回り、インターネットが携帯電話でもできるようになった。筆者は2006年から情報モラル教育にかかわっているが、携帯電話で課題であったフィルタリング等がネット環境整備法により安定し始めた矢先、また、新たな課題が生じた。そう、スマートフォン（以下スマホ）の普及である。スマート＝賢いを意味するこの機器はフォン＝電話という名称ではあるが“手のひらPC”と言われる機器で、何時でも、どこでも、誰でもがインターネットを利用できるモバイル機器である（図）。スマホの急激な普及

当初、スマホは一般的には普及しないと言われていたが、急速に普及した。ここ数年、ケータイキャリアの販売戦略もあったが、その豊富なアプリケーション（以下アプリ）が提供され、便利に使える手のひらPCとしてその良さが認められ、多くの人々に利用されて広まったのはご承知の通りである。高校生にいたっては、昨年、大ブレイクし、今年は、ほぼ全員の高校生がスマホ所持に

なるのではと言っても過言ではない。

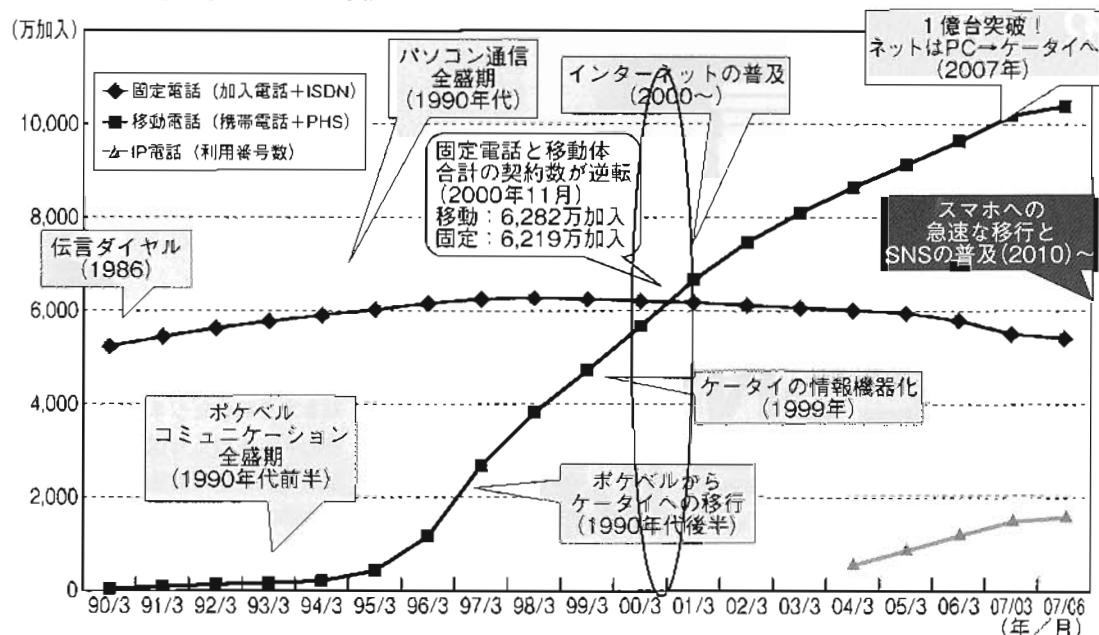
ネット社会の変容とSNS

つい数年前までは、学校裏サイトが大きな話題であった。メールによる依存症、出会い系サイト、プロフ等も社会問題化しつつあった。しかし、近年、学校裏サイトは情報が発信できるソーシャル・ネットワーク・サービス（以下SNS）にとって代わり、米国で誕生した世界規模のツイッターやフェイス・ブック、日本生まれのミクシィなど、課題はありながらも先の大地震では安否確認等で大活躍するなど大きな変容も遂げた。だが、昨年、とにかく大きな話題は後発のラインという通信系のアプリである。元来は非常災害で簡易に使える家族間の連絡用というイメージで開発されたが、とにかく利用が簡単、無料で使える、楽しいキャラクターのスタンプがある等の理由で、瞬く間に3億人以上のユーザーを獲得した。

ネットの課題に関する実態

以前からネットの問題が女子に発生しやすいとの指摘があるが、多くの実態調査でケータイやス

図・モバイルとネットワークの変遷



マホの男女での所有率について差があることが分かってきた。小学校高学年から高校1年生まで、女子は男子と比較し、ほぼ2割以上、所有率が高い。メールやチャットの利用も女子が多いとの調査結果が大半で、返信時間については、10分以内の返信が約70%にもなり、就寝が遅くなる大きな要因ともなっている。

ネット課題のカテゴリーは

筆者は青少年のネットの問題は以下の5つに分類ができるのではないかと考える。

- ①人間関係トラブルに関すること、②情報発信トラブルに関すること、③健康課題面に関すること、④情報セキュリティに関すること、⑤経済的課題に関すること。

上記の課題は、どれも基本的にはSNSの普及が根底にあると考えられる。そして、それらは、スマホだけに限らず、音楽プレーヤーやゲーム機など、Wi-Fi環境下ではどれも同じネット機器として機能することで起こっている。特に小学校の高学年生や中学生で起こる問題は、スマホよりもゲーム機や音楽プレーヤーの方が多くいらいである。また、ラインなどの通信系アプリでは、グループと呼ばれる機能で、気に入らない友だちを仲間から外すといういわゆる仲間外しの問題や、匿名のサイトでの誹謗中傷の書き込みによるネットいじめなどが問題視されている。一方で自己表現の発信の場として、SNSでの発信が多くなった

のも最近の特徴である。昨夏は大学生や高校生を中心にネット炎上事件が多発し、鉄道の線路に降りてみたり、冷蔵庫に入って写真を写し、それを不特定多数が閲覧するSNSのタイムラインに投稿するなどという行為は、社会から大きな非難を受けた。

ネット社会だから大事なこと

ネット社会は拡散力が大きい。マスコミ以上の伝搬力を持つこともある。報道されないローカルな素晴らしい行為がネットで注目されることもある。しかし、一方でちょっとしたミスが火種となり炎上することも後を絶たない。私は講演で、ネット社会のポイントとして『より、さらに』を強調している。より友だちへの配慮が、より人権への配慮が、より正確な文書表現が、よりきちんとしたコミュニケーションが、より誠意ある思慮深い言動が必要な時代である。トラブルが起こる時はその『より、さらに』を欠いた時である。

ある学校での実際のトラブル例だが「いいよ」とOKの意味で返信を投げ込み、受け取った側はノーサンキューと理解して喧嘩になった。ネットの社会もリアルな社会も基本は同じである。何も違わない。しかし、会話では誤解は生じなくとも、ネットではきちんと主語と述語を書く必要がある。成熟した日本のネット社会の構築のため、コミュニケーションや情報の発信は、さらに慎重にと、児童生徒も学生も大人も再認識したい。